

特別支援連携協議会だより

特別支援連携協議会事務局（釧路教育局）

令和3年6月15日（火）に、釧路教育局会議室を配信会場として、令和3年度第1回釧路管内特別支援連携協議会を開催しました。本協議会は、幼稚園から大学までの各学校等の代表者や、医療、保健、福祉、労働、保護者等の関係者で構成されており、管内の特別支援教育の推進に向けた協議等を行っています。本協議会で話し合われた内容等について紹介します。



＜令和3年度釧路管内の取組の重点＞

特別支援教育に係る国や道の方針、釧路管内の課題等を踏まえ、関係機関の連携強化による切れ目ない支援の充実に向け、令和3年度釧路管内の特別支援教育に係る取組の重点を以下の2点としました。

- 個別の教育支援計画の活用の一層の推進
- 教育と福祉、医療等、関係機関が連携した取組の一層の推進

事例発表「個別の教育支援計画を活用した関係機関との連携について」

令和2年度発達障がい支援成果普及事業推進校 北海道霧多布高等学校



北海道霧多布高等学校
島 加奈 教諭

「個別の教育支援計画」を活用した関係機関との連携に向けて

- 「個別の教育支援計画」を活用し、中学校との引き継ぎを行い、実態の把握や支援方法を確認することにより、学習・進路・生活の面において必要な支援を行うことができた。
- 労働等の関係機関と連携を図って、「ナビゲーションブック」の作成及び就労先の応募前見学の実施等を行うことにより、生徒のコミュニケーション力の向上、就労先の適切な選択及び就労先と生徒の相互理解の深化を図ることができた。

協議「関係機関の連携強化による切れ目ない支援の充実について」

各委員からの報告及び意見

- 市町村によって関係機関の連携に差があると感じていることから、各市町村において関係機関の連携が推進されるよう先進事例等の情報を共有していくことが大切である。
- 個別の教育支援計画は、作成自体が目的化している傾向が見られることから、日常的な活用の在り方について理解を深める必要がある。
- 個別の教育支援計画には、その内容にどれだけ子どもと保護者の思いや関係機関との関わりが記載されているかが大切である。個別の教育支援計画があるという認知は高まったが、関係機関と連携して活用していくという視点が大切である。

【まとめ】 北海道白糠養護学校 仲條 正輝 校長

- キーワードは「共有」である。個別の教育支援計画を学校等や関係機関間で共有し、子どもの実態や支援方法等についての共通理解を図る必要がある。
- 子どもを中心として関係機関が連携して適切な支援をしていくために、個別の教育支援計画を活用していくことが大切である。

【総括】 釧路管内町村教育委員会連絡協議会教育長部会 村上 明寛 教育長

- 個別の教育支援計画の作成・活用はもちろんのこと、教員の特別支援教育に係る専門性の向上を目指す研修にも取り組む必要がある。
- 特別な教育的支援を必要とする子どもへの適切な支援及び指導のためには、学校等の教育環境の整備だけではなく、関係機関の連携が進むように働きかける必要がある。
- 就学前から就労まで含めて、切れ目ない一貫した支援が行われることが重要である。引き続き、個別の教育支援計画を活用しながら関係機関の連携に努める必要がある。